

**学校法人 福原学園
平成25年度事業計画**

平成25年3月

目 次

1. はじめに

2. 事業の概要

- (1) 学校法人・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 1) 大学改革の推進
 - 2) 教育研究環境の整備
 - 3) 財政基盤の確立
 - 4) 管理運営体制の整備

- (2) 九州共立大学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
 - 1) 教育・研究の充実
 - 2) 学生支援
 - 3) キャリア支援
 - 4) 学生確保
 - 5) 学部等の改編
 - 6) 地域連携・地域貢献
 - 7) 国際交流

- (3) 九州女子大学・九州女子短期大学・・・・・・・・・・・・ 7
 - 1) 教育・研究の充実
 - 2) 学生支援
 - 3) キャリア支援
 - 4) 学生確保
 - 5) 学部等の改編
 - 6) 地域連携・地域貢献
 - 7) 国際交流

- (4) 自由ヶ丘高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
 - 1) 教師の資質向上
 - 2) 進学実績の向上
 - 3) 部活動の推進
 - 4) 生徒募集の強化

- (5) 九州女子大学附属幼稚園・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
 - 1) 折尾幼稚園
 - 2) 自由ヶ丘幼稚園
 - 3) 鞍手幼稚園

1. はじめに

福原学園は、建学の精神である「自律処行」の理念に基づき、平成20年度に策定した「福原学園設置大学中期計画（6ヶ年）」、ならびに平成22年度に策定した「中期財政計画（4ヶ年）」において目標と期限を明確にしたうえで、教育的側面にあつては教育研究の充実と学生サービスの向上、経営的側面にあつては安定的かつ永続的な経営基盤の確立に取り組んでいる。本年度は、福原学園設置大学中期計画および中期財政計画の最終年度にあたることから、掲げた目標の達成に向け教職員一丸となって諸施策に取り組む。

2. 事業の概要

(1) 学校法人

1) 大学改革の推進

九州共立大学、九州女子大学・九州女子短期大学（以下「学園設置大学」という。）における教育組織の充実と以下に掲げる項目を最優先課題とし、大学改革の推進に努めるものである。

- ① 学部・学科改編の検討
学生募集状況等を踏まえ、九州共立大学経済学部・スポーツ学部、九州女子大学家政学部・人間科学部について、学部・学科の改編等を念頭に置いた改組構想の検討を行う。
- ② 共同実施制度による学園設置大学大学院設置の検討
現在、文部科学省で検討されている教員養成6年制に係る国の施策等も踏まえ、共同実施制度による学園設置大学大学院研究科の設置構想について継続して検討を行う。
- ③ 九州共立大学、九州女子大学の教養教育・キャリア教育の在り方の検討
日本学術会議の提言（21世紀の教養と教養教育）および中央教育審議会答申（今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について）を踏まえ、九州共立大学、九州女子大学の教養教育・キャリア教育について、九州共立大学、九州女子大学に在籍する担当教員の協力体制等に係る検討を行うとともに、教養教育については、教育課程の改革の検討をも行う。
- ④ 各種委員会の再編による教職協働体制強化の検討
学園設置大学における主要な各種委員会において、委員会の組織、委員構成等の見直しを推し進めるとともに、教職協働体制を強化し、教員の業務軽減を図ることによって、教員が学士課程教育の質保証に傾注できるよう検討を行う。
- ⑤ 留学生受け入れ体制の検討
留学生の円滑な受け入れ体制を構築するため、国際交流の運営・業務の在り方について、法人部門と学園設置大学の協働をより効果的にすべく、現行組織の再編も視野に入れて検討を行う。

2) 教育研究環境の整備

教育研究目的を達成するために、中期財政計画に沿って着実に施設・設備環境の整備を図る。

- ① 九州共立大学のネットワーク機器更新
九州共立大学のネットワーク機器を更新し、併せてコンピュータウイルス等のネットワークを介する脅威への対策を強化する。

- ② 九州共立大学の事務システムの更新
リース期間終了後、再リースしている九州共立大学の教務、入試、学納金に係る大学事務システムの機器を更新する。
- ③ 九州女子大学・九州女子短期大学情報処理教室のシステムリプレイス
リース期間終了後、再リースしている九州女子大学・九州女子短期大学情報処理教室の情報機器を更新する。併せてフロアを張り替える。
- ④ 自由ヶ丘高等学校の教務・校納金システムの更新
リース期間終了後、再リースしている自由ヶ丘高等学校の教務・校納金システムを更新する。
- ⑤ 自由ヶ丘高等学校のグラウンドの整備
九州女子大学・九州女子短期大学より管理換後のグラウンドを400mトラックに拡張し、排水設備・周辺道路を整備して、体育祭、体育授業、部活動の充実のための環境を整備する。
- ⑥ 折尾幼稚園園舎の外壁改修
折尾幼稚園の経年劣化した園舎外壁を改修する。
- ⑦ 自由ヶ丘幼稚園園舎の建て替え
自由ヶ丘幼稚園の経年劣化した園舎を建て替える。実行にあたっては、私立学校施設整備費補助金（私立幼稚園施設整備費）に係る事業として申請中であることから、文部科学省による事業選定後の交付決定を要する。
- ⑧ 建物の耐震化の計画的推進
耐震対策を必要とする優先度の高い建物の耐震診断を実施し、年次耐震補強工事計画を策定して、耐震補強工事設計を委託する。

3) 財政基盤の確立

教育研究上の目的を達成するためには良好な財務状況を維持することが必要であり、そのために中期財政計画の最終年度として、経費の抑制を推進、適切な予算執行により、この計画で掲げている目標を実現する。

- ① 経費の抑制
省エネ法に基づき目標を掲げたエネルギー消費の低減策を実践することにより、省エネおよび節電を推進する。
- ② 財政収支の改善
中期財政計画に掲げている目標達成実現に向けて、本年度予算を適切に執行する。

4) 管理運営体制の整備

事務職員の効率的活用を図るために行う諸施策の適正化、および事務の効率化・合理化を図り、教育研究を支援する事務体制を整備する。

- ① 事務職員の人事制度の充実
事務職員の人材育成と適正処遇が実現できる人事制度の構築に向け、自己申告制度等の見直しを行い、管理職登用制度の原案を作成する。また、職員一人ひとりの役割責任を明確にするため、等級ごとの職責を設定する等級資格制度、および試験制度等を取り入れた資格基準に基づく昇任昇給制度を制定する。
- ② 事務組織の機能・編成の見直し
さらなる事務の効率化、学生サービス機能の充実を図るため、管理部門組織の統廃合、業務の集中化に関する検討課題について、実務的な検証、検討を進め、管理部門の再編を実行し、学生サービス部門への人的シフト、組織の統廃合、業務の効率化、および事務職員の定員管理について検討する。
- ③ 危機管理体制の整備
消防計画（防火・防災）に基づき、火災に対する防火体制および地震・テロに対する防災体制を構築し、地震発生を想定した初動対応の実践訓練を実施する。

(2) 九州共立大学

1) 教育・研究の充実

教育機能、教育活動、教育支援、教室外学習の充実により、学修成果（ラーニング・アウトカム）の一層の充実を図り、設定した学習目標の達成を目指す。研究活動については、競争的研究資金の獲得を推進する。

① 教育専門能力の向上

教育内容の改善、教育職員の相互研鑽、授業内容の実質化、質保証等を図るため、職員の職能開発「ファカルティ・ディベロップメント（FD）」、「スタッフ・ディベロップメント（SD）」を中心とした組織的な研究・研修を行い、質の高い教育を実施することにより、学生の満足度の向上を図る。

- ア. 大学FD委員会主導による授業改善の実施
- イ. 全学的体制での「FD・SD研修会」の定期開催
- ウ. 授業評価学生アンケートの改善・実施
- エ. 「相互授業参観」の全学的実施

② 授業の充実

キャリア、教養、専門、教職等の課程ごとに重点化する教育目標を設定し、当該科目において、特に重視する教育目標を明確にする。さらに、授業ごとに設定された授業到達目標への到達度を、到達への学習プロセスとともに成績評価の基準とし、教員と学生とがともに目標達成に向けて授業に臨む体制を築く。また、質の高い授業に向けて学生の自主的な教室外学習の充実を図る。

- ア. ウェブ利用の授業記録システム「シラバスオンライン」の利活用推進、およびFD活動の一環としての授業振り返りによる授業内容の充実
- イ. 学生の学力、学生満足度の向上（授業前後のケア、理解度テスト）
- ウ. 入学時の基礎学力調査（テストの実施）とその結果をもとにした授業展開
- エ. 少人数教育科目の導入
- オ. 出席管理システムによる学生の就学状況のリアルタイムな把握
- カ. 科目担当者会議の実施による成績評価基準の統一化、成績評価の公正、厳正化（GPA）

③ 教育組織の充実

授業満足度の改善・向上を実現するために、既存のシステムや組織を分析し、既存組織のさらなる活用、より効率的な運用を図る。

- ア. 経済学部においては、学部運営の短・中期戦略として、BSC（バランススコアカード）の手法で戦略マップを策定して、学部教育目標を可視化し、学生目線に立った教育内容の充実を図る。併せて、学力特待生プログラムを導入し、学力特待生に知識・技能・スキルや判断力・決断力・実行力を身につけさせ、学生満足度の向上に努める。
- イ. 教育内容の専門性をより明確にし、各コースでの主目標資格を体系的に位置付け、実社会で生かせるリーダーシップが発揮できる人材を育成する。
- ウ. 学習支援センターと、生涯学習研究センターの連携により、学生のニーズに即した内容の資格取得講座の検討を行う。
- エ. 学習・学生生活両面にわたる学生の就学支援体制を確立するとともに、障がい学生をサポートする支援体制の検討を進める。

④ 学習サポートの充実

修学レベルの底上げを組織的に行うため、入学前学習サポート、導入教育、補習教育等の教育活動において学習支援を行う。

- ア. 初年次教育への積極的な関与
自律的学習へ学生を導く役割としての情報リテラシー教育の実施

- イ. 2～4年生対象教育への関与
 - 卒論のテーマ探しや論文の検索方法等の習得
- ウ. 学習意欲向上を目指した学習支援センターの利用促進（やる気支援）、および授業理解を図るためのオフィスアワーの利用促進
- エ. 学部教育における資格取得の充実
- オ. 大学施設等の利用促進（キャンパスマイレージ制度の運用）
- ⑤ カリキュラム、プログラムの充実
 - 資格取得のニーズに応えるべく教育課程等の充実を図る。
- ⑥ 共同研究、受託試験等の促進
 - 産学官の連携強化を図るためには、本学が有する知的財産および各教員の研究シーズを外部企業・官公庁のニーズとマッチングさせる必要がある。そのためには、本学の知的財産および研究シーズを、一般に広く発信することが必要で、発信情報として教員の研究業績および研究設備等を集約整理・分類し、それらをインターネットの情報検索で外部企業等が十分に認識できるように体制を整える。
 - ア. 九州共立大学紀要委員会の主導による紀要関連事業の推進
 - イ. 機関リポジトリ事業のシステム構築と維持体制の整備
 - ウ. 経済系・スポーツ系教員の研究活動情報の収集整理および系統的な分類
 - エ. 経済系・スポーツ系教員の研究活動環境の調査
 - オ. 経済系・スポーツ系教員の研究情報のホームページ上での広報
 - カ. 研究成果のフェア出展等に関する体制の整備
 - キ. 外部資金の積極的獲得・活用
- ⑦ 図書館の整備と活用
 - 図書館機能の高度化、および取り組みの推進・拡大の一環として利用者ニーズに応じた効果的なサービスの提供を心掛け、入館者数の増加を目指す。
 - ア. 学習支援へのかかわりとしてレファレンスサービスの充実
 - イ. 「ラーニング・コモンズ」を活用した新しい学習・教育支援の取り組み
「ラーニング・コモンズ」の考え方
 - 大学図書館等における、学生が学習のために集うことのできる共有スペース。グループ活動エリア、プレゼンテーションエリア、PC利用エリア等、個人の自習環境に加え、グループワークにも適した学習環境を指す。
- ⑧ 情報処理教育研究センター
 - 図書館とともに本学の学習施設環境の向上に向けてさらなるサービスの充実を図る。安全で安定的なネットワーク環境の構築と、学生の自学学習のための各種コンテンツの提供、レポートや論文作成、情報収集、加工、および利用手法等についてサポートを充実する。
 - また、情報を操作することに付随して知っておくべき事項（著作権やウィルス対策等）についても啓発活動を行っていく。

2) 学生支援

- 多様化する大学生生活の満足度を高めるために、学生生活環境における学生の主体的取り組みを促進し、学生生活の支援・充実を一層強化することと併せ、学生ワンストップサービス等のさらなる充実を図る。
- ① 健全な学生生活の提供
 - 帰属意識の醸成、仲間づくり、在学生のフォロー等の観点からオリエンテーション、ガイダンス、日常の窓口対応等の充実を図り、学生生活がより有意義なものとなるよう支援する。
- ② クラブ・サークル活動の活性化
 - クラブ・サークル活動の広報・勧誘活動を活性化し、全学生60%がクラブ・

サークル活動に参加できるよう、練習場および指導者の確保は元より、部室提供等の環境整備支援や強化を促進し、トップアスリートの育成支援等を展開する。

③ 人間形成支援体制の構築

学生が主体的に運営する組織を再構築することを推進し、その運営の指導・管理を徹底することによって、課題追及能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を有し、創造性に富んだ人材を育成し、学生自治意識、企画力向上等を含めた学生組織の充実を図る。

④ キャンパスミーティングの活用

学長、学生支援部長、事務局長等大学役職者と、学力特待生、技能特待生、学生スタッフ、留学生等の学生代表者との定期的な意見交換の場を設けることにより、その瞬間の学生のニーズを確認し、学内施設設備の改善、教育環境充実等の学生サービスおよび満足度向上に迅速に対応する。

3) キャリア支援

学生へのキャリア支援はキャリアデザイン科目を核とする。キャリアデザインを核とするキャリア教育のコンセプトは、自己の資質・能力を理解し向上させる力および社会のニーズを把握し対応できる力を養成し、さらにはこれらの力を融合させ、就業を実現する力を育成することにある。そのことは、ひいては教育課程の柱をなす専門の学びを生かし、さらなる専門の学習の深化にもつながる。

① シナジー効果（相互発展）を期待する教育指導の推進

本事業は、就業力と学士力とを相互発展させるシナジー効果を期待した新たな全学的かつ体系的な教育システムへのシフトとその取り組みを目指すものである。

- ア. 産学協働・大学間連携を目的とした「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の推進
- イ. 現代GP「生涯キャリア開発型教育システム」の実績を土台とした「生涯キャリア支援による就業力育成事業」の継続した取り組みと教育改革への志向
- ウ. 多様な形態のインターンシップの拡充と定着（現行システムの拡充と起業体験型・課題解決型インターンシップの定着）
- エ. 専門職員（キャリアカウンセラー）によるキャリア教育支援・個別相談指導の充実
- オ. 就業を実現する力を学生に獲得させるため、CPS座談会・講座等、キャリア教育を側面から支援する特別プログラムを実施する。

② 教職協働による就職活動支援の強化

- ア. 学生の資質や能力、就職環境に応じた就職ガイダンスを行い、社会人として身につけておくべき能力や就職活動に必要な情報を提供し、また、「学内合同企業セミナー」を開催する。
- イ. 産官学連携を活用した産学協働による就職支援の取り組みを深めるため、43大学が連携した九州地区就職指導研究協議会と北九州市、北九州商工会議所が協働した就職支援の取り組みに、本学キャリア教育担当者と就職支援課が協働し積極的に関与する。

③ 資格取得支援における学部教育との連携

- ア. 経済学部 公務員試験合格者数8名以上
 - 公務員受験希望を明確に持っている学生に対して、1・2年次から勉強に取り組める体制を整備する。
 - i. 公務員受験希望者の募集
 - ii. 勉強会の実施
 - iii. 模擬試験の実施

イ. スポーツ学部 保健体育教員採用試験合格者数5名以上、公務員試験合格者数20名以上

スポーツ学部における保健体育教員の採用は着実に伸びている。教員免許取得希望者を対象として、「教員採用候補者試験」へ向けての教員養成セミナーを開催し、保健体育教員採用試験の合格へ向けたサポートを行う。

- i. 教育実習事前学習（4年）
- ii. 授業づくり・模擬授業（3年）
- iii. 教員採用試験対策講座（4年）
- iv. 教員養成セミナー（2・3年）

また、公務員受験を希望する3年生を対象として、集団による問題解決等の勉強会を実施する。

④ 学部と連携した資格取得支援講座の充実

資格取得支援講座については、学部教育の演習的な位置付けとし、かつ進路決定の助力となる企画を検討する。

⑤ 学生の思いやりの心を育成するボランティア活動支援

「生涯学習研究センター人材バンク」をリニューアルし、ボランティア活動を希望する学生と地域を結びつけるシステムの開発を検討する。

4) 学生確保

本学のビジョン「大学も学生も、有言実行で、あらゆる面での『No.1』を目指す。」を、具現化し、安定的な志願者、入学者の増加、確保を図る。本学が、文武両道の大学で、「職業人養成 教育大学」をスローガンとし、職業人養成に特化した大学であることを前面に学生募集を展開する。

① 大学全体の学力偏差値の底上げ

一般入試、大学入試センター利用入試、学力特待生入試による志願者、入学者の増加を図る。

ア. 他大学との差別化をした、本学独自の「学力特待生制度」を更に周知徹底

イ. 受験生、保護者、高校教員にとって分かりやすい入試制度への改正

ウ. 他大学と差別化を図った本学独自の「教育」構築による志願者、入学者の増加

② 学生募集実施策における内容の充実および強化

ア. 高校3年生だけでなく、1・2年生に対する、本学への「大学見学」の積極的なアプローチ

イ. 高校教員を対象とした、本学主催の「大学説明会」（8会場）の継続実施

ウ. 地元および女子学生の志願者、入学者増加を目指した学生募集の実施

③ 同窓会支部を活用した広報活動

本学の同窓会「自由ヶ丘」の支部総会に、学部長等が出席して大学の現状報告を行い、大学が行っている各種施策への理解を深めてもらうと同時に学生募集活動への協力を依頼する。

5) 学部等の改編

経済学部は、現状の教育体制の検証を十二分に行い、学修成果を重視した教育課程等の改編を検討する。スポーツ学部は、人材育成ニーズに応じて現行の教育体制の点検・評価を行い、新たな学科の開設を検討する。

6) 地域連携・地域貢献

地域あつての大学であることを念頭に、地域社会に対するサービスの提供を心がけることにより、良好な協力関係を積極的に構築する。

① 地域企業・他大学との連携

地域の高等教育機関・地域交流の場として活動体制を整備するとともに、本学教員の研究業績および研究設備等を集約整理・分類し、インターネットの情

報検索で外部企業等が十分に認識できる体制を整える。

- ア. 学園の研究、実験設備を利用したオープン・ラボ、レンタル・ラボ構想
- イ. 地域大学との授業交流（大学コンソーシアム関門）
- ウ. 大学の教育研究活動などの状況に関する情報の積極的な社会への提供

② 高大連携強化

オープンキャンパスや出前講義により、高校と大学の相互理解を図るための連絡協議会を設置し、高校生への個別指導と推薦入試との連動を図る。

- ア. 系列高等学校との連携強化
- イ. 近隣高等学校との連携拡大

③ 生涯学習プログラムによる地域貢献の促進

生涯学習プログラムにより大学の知識公開、施設の開放、行政および地域団体との連携による地域貢献を行う。

7) 国際交流

国際化への対応として、世界各国との交流を活発化する。協定校との学生の相互交流として、協定校からの編入学生、短期留学生の受け入れを継続し、留学生に対する支援体制の構築を図るとともに、本学学生の協定校への留学を促進する。また、協定校からの教員受け入れを引き続き実施するとともに、留学生の日本語教育等の充実を図る。

① 協定校との学生相互交流の推進

本学へ協定校から編入学生や短期留学生の受け入れを継続的に実施し、留学生の受け入れを増やすために新規協定校の開拓等を行う。また、相互交流の派遣として、本学学生に協定校への留学の案内を細かに行き促進する。

② 教員相互交流の推進

学術交流、教員交流、教員受け入れを引き続き実施する。

③ 留学生支援体制の充実

日本語教育の充実、履修指導、生活支援の他、留学生のための就職支援等のさらなる充実を図る。

(3) 九州女子大学・九州女子短期大学

1) 教育・研究の充実

教育活動については、学生の学習意欲を喚起させ、学修成果（ラーニング・アウトカム）が社会貢献に繋がる教育を実践する。また、研究活動については、外部資金の獲得や地域社会との研究活動の連携強化を促進し、学習目標を達成するための基礎となる研究活動の成果を授業内容に反映させる。

① 学生の質の維持・向上

学生が修得すべき学習目標に従い、専門的な学芸を教授するとともに、幅広く深い教養、総合的な判断力を培うため、教養教育やキャリア教育を充実強化し、豊かな人間性を滋養する教育を行う。

ア. 成績評価法、成績評価基準の明確化および周知

全科目について、成績評価法（5段階評価に改正）・成績評価基準のシラバスへの掲載や学生への周知を引き続き実施する。また、シラバスをウェブ上で継続的に公開する。

イ. キャリア教育の充実と教養教育の充実、教養科目の組織的な再編成

現代社会で生きるために必要な「人間力」、「就業力」を育成するため、

教養教育の充実、キャリアデザイン科目の開設等を平成22年度から九州女子大学全学部の教育課程に導入した。本年度は、人間科学部改組が完成年度を迎えることから、平成26年度からのキャリアデザイン科目および教養教育科目のカリキュラムや教育内容の改善を行う。キャリアデザイン科目については、学部・学科と共通教育機構が連携し検討する。教養教育科目については、九州共立大学・九州女子大学共通教育機構と連携し検討する。また、九州女子短期大学についても、キャリアデザイン科目の開設や少人数制の授業形態の導入、実践力演習報告会などにより、職業人として社会に貢献できる人材を育成する。

ウ. 少人数ゼミによる導入教育（フレッシュマン教育）の実施

平成22年度より人間科学部では「基礎総合演習」を廃止し、新入生に対する導入教育を1年前期の「キャリアデザインⅠ」にて実施している。今後の導入教育においては、専門教育への円滑な移行を考慮した演習形式の授業内容も導入すべく、共通教育機構での検討を継続し行う。

② 授業改善の支援体制の整備

分かりやすい授業の提供や効果的な授業方法の改善等を図るため、FDを中心とした組織的な研修等を実施する。

ア. FD推進委員会の効果的運用

授業フィードバックアンケートにおける授業満足度を向上させるため、教員による授業相互参観を全教員にて継続的に行い、授業参観後の検討会を開催し、授業改善に取り組む。また、本年度は、FD活動の一環として、ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップに教員を派遣し、ティーチング・ポートフォリオ（自らの教育活動について振り返り、自らの言葉で記し、多様なエビデンスによってこれらの記述を裏付けた教育業績についての厳選された記録）を作成させる。

イ. 教室内設備機器の更新

平成24年度に策定した教室内設備更新計画に基づき、耕学館内の4教室においてプロジェクター等の設備を更新する。

③ 教育組織の充実

教育研究水準の維持向上や教育研究の活性化を図るため、教育研究を適切に遂行するにふさわしい運営の仕組みを構築する。

ア. 九州女子大学家政学部においては、本年度よりカリキュラムを再編成した。人間生活学科では、学問領域の明確化、授業科目のスリム化を図り、特色ある教育課程の再構築により、地域社会との交流等を通して実社会でのマネジメント能力を涵養することに努める。栄養学科では、授業科目のスリム化や国家試験対策科目の強化等、各科目を効果的、系統的に配置することにより、管理栄養士としての総合的実践力を涵養することに努める。

イ. 九州女子大学人間科学部人間発達学科においては、改組完成年度を迎え、設置の趣旨に基づいた教育課程を着実に履行し、多彩な免許・資格を生かすことのできる人材の養成に努める。

ウ. 九州女子短期大学子ども健康学科においては、改組完成年度を終え、これまでの教育課程を再編成し、基礎科目の充実を図り、養護教諭、幼稚園教諭および保育士としての総合的な実践力を涵養することに努める。また、本年度から新たに設置した専攻科子ども健康学専攻については、設置の趣旨に基づいた教育課程を着実に履行し、学士の学位取得、養護教諭採用試験対策等、教育目的の達成に努める。

④ 社会的ニーズへの対応

高等教育機関として、社会が求める人材育成に応えるべく外部の機関等との連携を強化する。

ア. 教育実習現場等との連携強化

近隣地域の小学校への学校ボランティア活動は、その体験が教育実習に効果的であるため、継続的な実施と支援の強化を図る。また、北九州市立子育てふれあい交流プラザ、行橋市地域子育て支援センター、戸畑親子ふれあいルーム等の活動を通じ地域貢献を図る。

イ. 認証評価および相互評価の実施

平成26年度の（財）大学基準協会の認証評価受審に向け、自己点検評価を実施し、報告書を作成のうえ申請する。

⑤ 研究活動の促進

科学研究費補助金の説明会の開催や申請業務の補助を行うとともに、個人研究費を傾斜配分し、その一部を成果配分研究費として配分する等、研究活動に対する組織的な支援体制を整備する。

ア. 競争的研究資金（科研費等）への対象教員90%以上の応募や共同研究の積極的な推進

イ. 地域社会との研究活動に対する連携強化および支援体制の整備

ウ. 優れた研究活動に対する報奨的資金としての成果配分研究費の支給

エ. 研究活動の成果に対する点検・評価の実施

⑥ 教育研究環境

教育研究環境を整備して自主的・自発的学習を促進させるとともに、学内外へ研究成果を公開しながら、研究活動を拡充させる。

ア. 新入生や在学生を対象とした図書館情報リテラシー教育の実施

イ. 機関リポジトリとしての大学研究紀要に関する電子媒体化の推進と複製権・公衆送信権を許諾した論文の公開

ウ. 平成24年度私立大学教育研究活性化設備整備事業による設備のさらなる活用と学修支援（アクティブラーニング）の実施

⑦ 産業界のニーズに対応した教育改善・充実整備事業の推進

九州女子短期大学では、平成24年度より実施した産業界のニーズに対応した教育改善・充実整備事業「地域力を生む自律的職業人育成プロジェクト」において、就業力育成支援事業で確立したキャリア教育を土台とする取り組みを更に推進し、産業界ニーズとして必要とされる「早期離職者の軽減」「即戦力での人材育成」「コミュニケーション能力の向上」の3点を兼ね備えた職業人として社会に貢献できる人材の育成に努める。それらを達成することで学生の授業に対するフィードバックアンケート結果の学生満足度3.2以上を保つ。

2) 学生支援

授業以外の学生生活支援の充実のため、学生生活における多様化したニーズに対しての学生サービスを提供する。

① 相談・助言体制の整備

ア. 総合相談窓口「九女ルーム」の活用

学生の多様化したニーズに対応するため、キャリアカウンセラー等の配置により個別相談体制を強化する。また、低学年からの利用を促進することで、新1年生の認知度100%を目指し、利用満足度70%を維持する。

イ. 生活マナーの指導強化

九州女子短期大学は、キャリアデザイン科目においてマナー・プロトコルの授業を取り入れ、マナー指導の強化を図り、授業以外においてもマナー講座等を随時開催することで学内でのマナーの徹底を図る。また、マナー・プロトコル検定3級の合格率8割以上を目指す。

② 学生ニーズの組織的な聴取

学生満足度を向上させるため、学生満足度アンケートの実施、およびキャンパスミーティングやリーダーズ研修の実施を通して学生ニーズを把握し、学生満足度を全国平均60%の維持に努める。また、これまでの意見聴取の中で学生から要望が強かった喫煙が身体におよぼす害や喫煙者のマナー等の対策について、学生部委員会で協議し、具体的な一策として学内全面禁煙を実施する。

3) キャリア支援

学生生活支援の充実のため、授業以外の学生生活における多様化したニーズに対してキャリア支援を行う。

① 就職活動支援の充実

学生によるジョブコーチ制の導入計画を立案し、学生同士の就職支援体制が取れるように体制を整えることで就職率を底上げ、就職率（就職者／就職希望者）90%を維持、および進路決定率（就職者・進学者／卒業生）80%を確保する。

② 免許、資格支援体制の強化

各学科・専攻にて取得可能な免許資格について、教員採用試験対策講座を始めとする免許資格取得および就職に向けた支援事業を促進し、各学科等の目標を以下のとおり設定する。

(人間生活学科)	教員(家庭)中・高公立校受験率	50%
	教員(家庭)中・高公立校合格者数	2名
(栄養学科)	管理栄養士国家試験受験率	100%
	管理栄養士国家試験合格率	90%
(人間発達学専攻)	小学校教員採用試験二次合格率	35%以上
	特別支援学校教員採用試験合格者数	1名以上
	幼稚園・保育所就職率	100%
(人間基礎学専攻)	就職希望者率	80%
	大学院進学者数	6名
(子ども健康学科)	幼稚園・保育所就職率	100%
	養護教諭志向学生教員採用試験受験率	75%以上
	養護教諭志向学生教員採用試験一次合格件数	2件以上
	養護教諭志向学生教員採用試験最終合格件数	1件以上
(養護教育学専攻)	学位(学士)審査合格率	100%
	養護教諭採用一次試験合格件数	10件
	養護教諭採用最終試験合格件数	3件

③ 学部と連携した資格取得支援講座の充実

資格取得支援講座については、学部教育の演習的な位置付けとし、かつ進路決定の助力となる企画を検討する。

④ 学生の思いやりの心を育成するボランティア活動支援

「生涯学習研究センター人材バンク」をリニューアルし、ボランティア活動を希望する学生と地域を結びつけるシステムの開発を検討する。

4) 学生確保

本学が取り組んでいる学生募集活動のさらなる充実を図るとともに、受験生の視点から現行の入試制度を見直し、受験生にとって、受験しやすい魅力ある入試制度を構築する。

① 学生募集活動の充実

ア. 重点校への高校訪問

大学、短大における各学科の入試実績に応じた指定校枠の抜本的な見直しを行うとともに、実態に即した有効な連携方法を構築することで、高校との

連携強化を図る。また、新規指定校開拓を重点とした高校訪問を行い、指定校推薦入試による入学者を大学については入学定員の25%、短大については入学定員の70%確保を目指す。短大専攻科については、他大学への募集活動を積極的に行い、入学者の確保に努める。

イ. 同窓会支部総会を活用した広報活動

本学の同窓会「梅香会」の支部総会に、入試委員会メンバーが出席して大学の現状報告を行い、大学が行っている各種施策への理解を深めてもらうと同時に学生募集活動への協力を依頼する。

ウ. 学生による母校訪問

「母校訪問大使」として登録した学生が帰省時等を利用して母校に恩師を訪ね、学生生活の近況報告を行うことにより、学生の口から直接大学の情報を提供する。

エ. 出前授業および大学見学会の実施拡大

本学の教育内容等について、高校生や高校教員に広く知ってもらうため、専用のチラシを作成し、高校等へ配布する。

オ. 連携校の開拓および強化

現在の連携校は、八幡南高校および飯塚高校であるが、本年度は特に、保育コースを設置している高校をターゲットとして、有効な連携の在り方を模索し、連携の強化に努める。

② 入学者選抜方法等の見直し

推薦入試やAO入試による早期合格者に対して、学力特待生入試の受験を認める“チャレンジ特待生システム”の導入を検討する。

5) 学部等の改編

九州女子大学家政学部は、本年度よりカリキュラムの再編成を実施したが、現在の社会情勢および本学を取り巻く環境等を踏まえ、学部の改組構想を引き続き検討する。人間科学部は、平成22年度に学部の改組を行い、本年度が完成年度となる。現行の1学科2専攻の学修成果の検証、現在の社会情勢および本学を取り巻く環境ならびに教員養成・出口管理等の現状を踏まえ、教育課程等の改編を検討する。

6) 地域連携・地域貢献

地域社会との研究活動等を連携強化し、大学の知的財産を地域社会に還元するとともに、大学の認知度の向上を図るため、教育職員の研究内容を中心とした情報公表を促進し、地域のニーズ等情報収集を組織的に行う支援体制を整備する。

- ① 学校教育法施行規則の改正に基づく教育情報の積極的な公表
- ② 学生による教育機関等へのボランティア活動の継続的な実施と支援強化
- ③ 地域子育て支援への参画
- ④ 生涯学習プログラムによる地域貢献の促進
- ⑤ 大学間連携共同推進事業「まちなかESDセンター実践プログラム」の推進

7) 国際交流

国際化への対応を実施していくために、協定校との学術交流・学生交流・教員交流を中心に交流の拡大を図る。

- ① 協定校との学生相互交流の推進
上海師範大学天華学院、内モンゴル大学からの編入学試験の検討を行う。また、新たな協定校の開拓を行い、本学へ協定校から編入生30名、短期留学生26名の受け入れを目指す。
- ② 教員相互交流の推進
上海海洋大学との学術交流や中華女子学院との共同研究・教員交流を引き続き実施するとともに、新たに湖南女子学院、上海師範大学天華学院、内モンゴ

ル大学との学術交流を推進する。

③ 留学生支援体制の充実

平成26年度からの留学生支援の在り方について、国際交流委員会での検討結果を受け、教育システムや担任制の導入等、効果的な支援体制を確立する。また、学部留学生寮（折尾マンション）の運営について再検討する。短期留学生寮については、白鶴館から銀杏寮に変更する。

(4) 自由ヶ丘高等学校

1) 教師の資質向上

教育活動を通じて次世代を担うことのできる知・徳・体のバランスのとれた逞しい生徒の育成、さらに「特色ある魅力的な学校」づくりが課題であり、これを達成するため、教職員が教育目標を十分に理解し、その具現化に向け、主体的かつ創造性豊かに教育活動に励むとともに、教育的情熱を持ち続けることが大切である。学校改革は教師の意識改革が最も重要である。

① 「評価と改善」に立脚した「組織的実践力」の向上

評価活動（自己評価・授業評価）およびマネジメントサイクル（P・D・C・A）の徹底を図り、効率的・組織的な教育活動の推進を図る。

② 組織力向上に向けた教職員の「意識改革」の推進

校内外の研修を通して教育専門職としての使命感および実践的指導力の向上を図る。

③ 生徒の夢（希望進路）を現実化できる「組織的教育力」の向上

正課授業を重視するとともに、学習指導法の研究、授業の工夫・改善に努め「分かる授業」を推進するため、校内授業研究体制の充実を図る。

2) 進学実績の向上

本校の教育目標、教育方針に沿って、コース・クラスの特徴を生かし、3年間を見通した一貫性のある進学指導体制を構築し、国公立大学および難関私立大学合格者数の安定化を図る。

① 教科指導の充実

コース・クラス、文系・理系の学習指導について、年間を通して授業時間数を確保するとともに教科指導・生徒指導体制の充実により、学力の底上げおよび学力の伸長を図り、進学実績の着実な前進を目指す。

② 受験対策指導の推進

受験対策指導の強化を推進し、大学（国公立大学・私立大学）の現役合格者の増加を図ることで、進学校としての礎を確固たるものにする。併せて、学園設置大学との連携を強化する。

③ キャリア教育の推進

意欲的に学び、知性を磨き、確かな学力の向上により希望進路の実現を図るため、生徒の「自己決定能力」を身につけさせる本校独自のキャリア教育である「リバティーキャリアプラン」の推進を全校あげて実施する。

3) 部活動の推進

本校の教育方針である「人間開発」・「学力開発」の教育方針のもと、部活動の加入率（60%→65%）を上げ文武両道の活力に満ちた学校づくりを行う。

このことにより協調性や忍耐力を身につけるとともに人格形成を図る。

4) 生徒募集の強化

本校を取り巻く環境は、就学人口の減少、公立高校の授業料無償化、厳しい経済状況など大変厳しいものがある。このような中、志願者数3,000名以上を確保し、入学者数を安定的に確保するため、中学校・塾に対する積極的な広報活動を推進する。特に本校の教育内容・教育施設・進路実績・部活動実績などの情報を学校案内パンフレットやホームページ、キャンパスツアー、中学校および塾主催の説明会を通して、中学生・保護者・中学校・塾に効果的・効率的に発信することで募集活動の強化を図る。

(5) 九州女子大学附属幼稚園

三幼稚園が相互に連携を図るとともに、各幼稚園の特色を活かして、保育内容、教育課程外活動、職員研修等を充実し、大学・地域との連携を促進する。

1) 折尾幼稚園

- ① 園児の確保
 - ア. ホームページにおける新規コンテンツの追加および広報活動の見直し
 - イ. 未就園児教室（ふれあい広場）の充実
 - ウ. 附属幼稚園としてのメリットの活用および設置校との連携
 - エ. 小学校との情報交換によるデータ集約
- ② 保育内容の充実
 - ア. 保育スキルの向上
 - イ. カリキュラムの充実（英語授業の導入）
- ③ 大学・地域との連携
 - ア. 地域の福祉施設等との連携
 - イ. 大学・地域のイベント等への積極的参加
- ④ 研修の充実
 - ア. 外部研修会への積極的参加および園内研修会の実施
 - イ. 保護者を対象とするセミナー、セッションの実施
- ⑤ 教育課程外の充実
 - ア. アンケート調査による現状把握と改善策の実施
 - イ. その他
 - i. 危機管理体制の整備
 - ii. 組織の運営方法の見直し
 - ・ 4 S（整理・整頓・清潔・清掃）の徹底
 - ・ 業務分担の見直し

2) 自由ヶ丘幼稚園

- ① 園児の確保
 - ア. ホームページの更新、幼稚園ネットへの登録継続等の広報活動の強化
 - イ. 未就園児教室（わくわく保育）の充実
 - ウ. 教育方針を保護者にアピールするための共通理解
- ② 保育内容の充実
 - ア. 園の教育目標達成に向けた保育活動のシステム化
 - イ. 教育要領に沿った保育活動の実践

- ウ. 日々の保育活動の質的向上
- ③ 大学・地域との連携
 - ア. 運動教室、リトミック、英会話指導等を学園設置大学との連携による充実
 - イ. 学生ボランティアを活用した行事運営
 - ウ. 大学教員との連携による保育活動の質的向上
- ④ 研修の充実
 - ア. 園児の夏休み期間を利用した研修の実施
 - イ. 各教育職員のテーマに沿った個人研修の実施
- ⑤ 教育課程外の充実
 - 保護者のニーズに応え、ピアノ教室、英語教室、体操教室、絵画教室等を実施

3) 鞍手幼稚園

- ① 園児の確保
 - ア. 魅力ある未就園児教室（ぐんぐんクラブ）の充実
 - イ. ぐんぐんクラブの広報活動の充実
 - ウ. 附属幼稚園としてのメリットの活用および設置校との連携
- ② 保育内容の充実
 - ア. 5つの心（明るい心・素直な心・感謝の心・反省の心・積極的な心）を備えた子どもの育成
 - イ. 自然環境との対話により、生命尊重・優しい心を備えた子どもの育成
 - ウ. 美しいものを美しいと感じる豊かな感性を備えた子どもの育成（本物に触れさせる）
- ③ 大学・地域との連携
 - ア. 近隣の小・中学校との交流活動
 - イ. 地域行事への参加・協力
 - ウ. 大学教員と幼稚園とのコラボレーション
 - エ. 年間を通して野菜やコメなどの植え付けから収穫までの体験学習と実食
 - オ. 地域の名人さん（保護者の会）登録制度の確立と「手作り体験教室」の実施
- ④ 研修の充実
 - ア. 教育効果を高めるための理論と実践の研究（園内研修、園外研修）
 - イ. 研修会等参加者の報告会と協議
- ⑤ 教育課程外の充実
 - リトミック教室の導入